

## イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

今村豊

### 目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に漁海況情報として情報提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

### 材料と方法

#### 1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

#### 2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

### 結 果

#### 1. 学習会の開催

平成28年4月27日に八戸市中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から推定した前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月26日に東通村（東通村連合研究会）、6月10日に泊漁業協同組合において、小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、(国)水研センターの調査結果、本県の漁況について説明した。

#### 2. 漁獲動向調査

##### (1) 近海スルメイカ

2016年度の近海スルメイカの水揚動向について、主要港全体でみると、水揚げ量は2,444トンで、前年比54%、近10年平均比31%であった。また、CPUEは247.5kg/隻で、前年比77%、近10年平均比50%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚量は782トンで、前年比127%、近10年平均比44%であった。また、CPUEは374.5kg/隻で、前年比111%、近10年平均比72%であった。大畑港の水揚量は257トンで、前年比22%、近10年平均比19%であった。また、CPUEは119.1kg/隻で、前年比38%、近10年平均比27%であった。白糠港の水揚量は346トンで、前年比47%、近10年平均比27%であった。また、CPUEは125.1kg/隻で、前年比73%、近10年平均比43%であった。八戸港の水揚量は1,058トンで、前年比52%、近10年平均比31%であった。また、CPUEは370.3kg/隻で、前年比52%、近10年平均比31%であった。

##### (2) 船凍スルメイカ

最近5年間(2011～2015年)の動向をみると、延べ航海回数(水揚回数)は128回から228回で、平均186回となっている。2016年は113回で、前年比72%、近5年平均比52%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚量は9,548トンから16,701トンで、平均13,320トンとなっている。2016年度は6,872トンで、前年比88%、近5年平均比61%となった。1航海当りの水揚量は64トンから77トンで、平均72トンとなっている。2016年度は61トンで、前年比82%、近5年平均比85%であった。

---

発表誌：平成28年度イカ類漁場開発調査資料第42号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成29年7月